

市内7郵便局で絵手紙の風景印

市制50周年記念し「絵手紙発祥の地-狛江」PR

狛江市内の7つの郵便局すべてで、絵手紙のモデルとなる各局の地域の特徴などを描いたオリジナル風景印（消印）を新調、1日頃から押印が始まる。有名観光地などがある自治体以外で、市内の全郵便局が一斉にオリジナル風景印を作るのは珍しいという。

風景印は正式名称を風景入通信日付印と呼び、手紙やはがきに押される消印の一種。その土地の名所や名産品などの絵が描いてあり、郵便局によってデザインが異なる。狛江市は、これまで狛江郵便局に五本松

と万葉歌碑、和泉式土器を描いた風景印があったが、8月31日付で廃止された。

狛江市の市制施行50周年記念として絵手紙にちなんだ事業を計画していた狛江市が、「絵手紙発祥の地-狛江」を絵手紙愛好者だけでなく全国の人に知ってもらおうと、「絵手紙発祥の地-狛江」実行委員会のオブザーバーを務める狛江東野川郵便局長の口岩洋伸さんに相談し、連携して市内全局で絵手紙風の風景印を作るアイデアが口岩さんから提案された。実行委員会などで検討の結果、風

景印を作成することに決まり、日本郵便（株）の許可を得た。昨年12月頃から準備を進め、小玉真砂子委員長ら7人の実行委員が1人1局を担当、春に各局から希望を聞いて絵を描くとともに、描かれた建造物などの所有者に許可を取った。

出来上がった風景印は次の通り。①狛江駅前郵便局=狛江駅北口と郵便ポスト②狛江中和泉郵便局=玉川碑（万葉歌碑）③狛江東野川郵便局=野川の下流部と桜、カワセミ④狛江西野川郵便局=野川の上流部と桜、カワセミ⑤和泉多摩川駅前郵便局=多摩川と多摩水道橋、桜⑥狛江岩戸南郵便局=岩戸八幡神社と岩戸

ばやしひのひよつこの狛江郵便局=むいから民家園と丸ポスト。

風景印を押してもらう場合は、希望する風景印がある局の窓口で押印を頼む。

各局ではこれに合わせてスタンプラリーが楽しめる風景印帳を作成した。郵便局を回って、局名と風景印の説明が印刷されたA3判の台紙に63円以上の切手を買って貼り、風景印を押してもらう。

口岩さんは「これを機会に7カ所の郵便局を知ってもらい、狛江の良さを再発見してください」と呼びかけている。

問い合わせ ☎3489-4431 狛江東野川郵便局。



住居を地域に開放-よしこさん家が1周年 気軽に交流できる地域の居場所

地域の幅広い世代の人が気軽に立ち寄り交流できる居場所として昨年9月に活動を始めた「よしこさん家」（狛江市元和泉3-10-4）が1周年を迎える。

高齢者施設に入居した鈴木よし子さん（89）の代わりに家を管理するため、妹の増村聖智子さん（75）が3年前に転居してきた。介護福祉士や幼稚園教諭などの資格を持つ増村さんは、2世帯住宅のうち、姉の居宅部分を昨年春から認知症支援サークルの活動場所として月1回使うことにした。

さらに増村さんは、狛江市社会福祉協議会に「姉は地域のたくさんの人と交流してきたので、お世話になった地域のために家を活用したい」と相談。地域の課題解決につながる「誰もが気軽に訪れることができるような居場所」をコンセプトに地域に開放することになった。

利用できるのは、1階の7畳半と6畳の和室と屋外ガレージで、おもちゃや児童書、レコードも聴ける音楽機器、Wi-Fiを備えている。現在は、新型コロナウイルス感染症対策を行いな



よしこさん家

「あかちゃん」などを催している。

利用者からは「実家に帰ったようでゆったりできた」「同年代の子どもの母親と交流できた」などの感想が寄せられている。

よしこさん家ではイベント実施日の手伝いやチラシ配布などを行う運営協力者を募集している。

問い合わせは ☎090-5115-5240 よしこさん家 増村さん、または ☎3488-0313 狛江市社会福祉協議会地域福祉課地域共生担当。



◆ 91 ◆

造園業に加えブルーベリー園も開設

有限会社大門荒井ガーデン（東和泉1-35-5）は約60年にわたって造園業を続けるほか、3年前からブルーベリーの摘み取り農園も始めた。

創業者の荒井昭さん（昭和5年～平成20年）は元和泉1丁目で長く続く農家で、実家の建物は「むいから民家園」へ移築された。昭さんが生まれた頃は、父の一さん（明治28年～平成2年）が稲作や野菜栽培のほか、桜やモモの花が咲いた枝を出荷したり、ツツジなどの苗木を育てていた。調布市の寺で毎月開く植木市で苗木が順調に売れるようになり、次第に植木の栽培に力点を置くようになったという。昭さんも造園の道を志して都内で4、5年修行した後、昭和36年頃に創業した。この時、修業先で知った東京農業大学の教師のアドバイスで、当時

同大が出版していた庭造りの本の「ガーデン・シリーズ」にちなんで「荒井ガーデン」と名付けた。当時は造園業者で横文字の名前はまだ珍しかったという。昭さんは、石と武蔵野の樹木を組み合わせた日本庭園を造るのを得意としていた。創業した頃から狛江の農家では家を建て替えて大きな石を置いた庭を造ることが多くなり、昭さんも知り合いの農家の庭造りを手がけた。また、39年の東京オリンピックの頃から首都圏では庭付きの戸建て住宅の建築ラッシュが始まって近隣の町からの依頼も増え、常時3、4人の職人を雇っていた。



荒井昭さん

大門荒井ガーデン

現社長の悟さん（56）は幼い頃から家の苗木畑に植えられていた木に親しみ、中学時代からは苗木の出荷や松の盆栽作りなど家業を手伝った。ただ、小学生の時に毛虫に刺されたのがきっかけで虫が苦手になったため、造園の道に進むことをためらったが、木を扱う仕事に就きたかったため、高校卒業後は専門学校で造園デザイン科で庭造りを学んだ。卒業後は、造園関係のデザイン事務所で主に設計を担当したが、庭造りの現場で働くことに魅力を感じるようになった。父の昭さんに家業を継ぎたいと相談し、狛江市内の

造園会社で3年半修行した後、実家に戻った。悟さんは仕事の合間に狛江市消防団やマインズ農業協同組合青壮年部など地域活動を行っている組織に積極的に参加した。

平成7年に法人格を取る手続きをしたが、類似名称があったため、江戸時代から続く屋号「大門先」にちなんで「大門」を前に付けて社名にした。仕事は親子2人と職人とで長年依頼を受けている家の庭の手入れや寺院の庭造りや管理などを行っていた。近年は、広い庭のある新築住宅が減り、せつかくある庭を壊してしまう家も増えてきたため、仕事が減っているという。昭さんが亡くなった時に果樹園を運営する友人に相談、ツツジの苗木畑にブルーベリーを植えて育てた。平成29年からは7月と8月にブルーベリー園を開園、摘み取りのほか、マインズショップにも出荷している。

チャレンジ精神が旺盛な悟さんは、親戚の寺に頼まれて寒さに弱いインドボダイジュを露地植えで越冬させようと試みているという。悟さんは「造園の仕事は、植物の生長につれて変わるため、完成がないところがおもしろい。お客さんと一緒に庭の植物の生長を楽しみたい」と話している。

☎3480-1779、営業時間=原則午前8時30分～午後5時、日曜休み

約60年前に創業/市内の農家や寺院の庭手がける



狛江青年会議所がはじまりの花火

7月24日昼に多摩川緑地公園グランドで数十発の花火が打ち上げられ、夏の夜空を大輪の花が彩った。

日本青年会議所が、新型コロナウイルス感染症拡大で沈んでいるムードを吹き飛ばそうと東京オリンピックの開会式が開催される予定だった同日に、「はじまりの花火」と名付け、全国一斉に打ち上げたもの。

狛江でも狛江青年会議所（秋元慈一理事長）が実施、1分半の短時間に4号玉やスターマインなどを打ち上

げた。秋元理事長は「現在の状況を理解した上で、前向きになって自分の街のことを考えて行動する時期だと思うので、花火がそのきっかけになればいい」と話していた。

秋祭りは中止に 市内の全6神社

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、市内にある6つの神社すべてが神事を除く秋祭りの中止を決めた。

各神社の氏子総代などが協議した結果、ウイルスの感染収束の見通しが立たない状況を考慮して太鼓や山車、みこしなどの巡行、出店、演芸・歌謡ショーなどを中止し、最も重要な神事のみを行うことにした。

市民ゴルフ大会が中止

狛江市ゴルフ連盟は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、10月14日頃にある6つの神社すべてが神事を除く秋祭りの中止を決めた。